

# ミャンマーの自然随筆集

筆者ブログ: Myanmar Wild Tour -ミャンマーの自然を訪ねて-  
( <http://onishingo.blogspot.jp> )

## 1. 大西信吾のミャンマー自然探訪

### ◆ミャンマー自然探訪 その1. -野獣の宝庫 AK-

ミャンマー各地を訪ね様々な自然を紹介してきた大西信吾氏が、7年ぶりに思い出の森を目指した。変わりゆく交通機関に変わらぬ旧友たちの持てなし。そして、会いたいと願っている憧れの森の王者、あの動物は今…

<http://yahp.e7.valueserver.jp/1050.zuihitsu/onishi.01.pdf>

### ◆ミャンマー自然探訪 その2. -精霊の島-

ヤンゴンから直線距離にしてわずか120キロ、エヤワディーデルタの一角に水辺の怪物が住む島がある。写真随筆家で森林インストラクターの大西信吾氏が、伝説の息づく島を訪ね、汀に横たわる深淵な問題を報告する。

<http://yahp.e7.valueserver.jp/1050.zuihitsu/onishi.02.pdf>

### ◆ミャンマー自然探訪 その3. -近場の穴場、水鳥の楽園-

路地裏にたむろする辻犬や撒かれた豆に群がるドバト。この国のどこに純粋な野生の動物がいるというのか。個人で各地を旅してきた大西信吾氏が、今回はファミリー視点に立って、取っておきのスポットを紹介。

<http://yahp.e7.valueserver.jp/1050.zuihitsu/onishi.03.pdf>

### ◆ミャンマー自然探訪 その4. -激動の山塊、バゴー山地-

中央高速道路の貫通で間近に望めるようになったバゴー山地。かつて野生動物の宝庫にしてチークの一大産地だった山塊は、国の発展の陰で激動の変遷を辿っている。その現状を伝え、これからの考える。

<http://yahp.e7.valueserver.jp/1050.zuihitsu/onishi.04.pdf>

### ◆ミャンマー自然探訪 その5. -西の城壁、ラカイン山脈-

ミャンマー西部を形作るラカイン山脈。ベンガル湾に面して連なる壁は、東南アジア屈指の豪雨地帯と屈指の乾燥地帯を生み、植生をも分かち。ユニークな森を育む仕組みと集う動物たちの暮らしを垣間見る。

<http://yahp.e7.valueserver.jp/1050.zuihitsu/onishi.05.pdf>

### ◆ミャンマー自然探訪 その6. -南風の誘惑-

赤道に向かって伸びるミャンマー南東部。そこは生物多様性の重要スポットであると共に、多様な民族も入り交じる極めて繊細な地域だ。民族間の和平に自然との調和。果たして実現することは可能なのか否か。

<http://yahp.e7.valueserver.jp/1050.zuihitsu/onishi.06.pdf>

### ◆ミャンマー自然探訪 その7. -花のパダウと木のパダウ-

暑季の終盤、町を黄色に彩るヤンゴンの風物詩、パダウ。誰もに愛されているこの花には、意外な出所の秘密があった。その経歴を探りつつ、生き物のアイデンティティーをめぐる昨今の動

向について考える。

<http://yahp.e7.valueserver.jp/1050.zuihitsu/onishi.07.pdf>

### ◆ミャンマー自然探訪 その8. -マンゴー百景-

「センタロウというのが一番うまいと聞いたんだけど、いつ頃どこで食べられますか」赴任して間もない方から尋ねられた。「え？あっ！あーあ」。これはマンゴーの話で、彼の言うセンタロウとは、その中の品種の一つ、セインタロンのことだった。

<http://yahp.e7.valueserver.jp/1050.zuihitsu/onishi.08.pdf>

## 2. 小林 延秀の旅行日記

### No.01. 小林 延秀のカチン州旅行日記 前編

急斜面にせり出した小屋に寝ころんで、暗闇に空いた窓から満天の星々を眺めていた。ポーカーに興じていたポーターたちも静かになり、蝉やバッタの鳴き声と時折聞こえる猿の叫び声だけになった。昨夜は雨漏りのため、なかなか寝つけなかったが、今夜はゆっくり眠れそうだと。思った刹那、大音量が響いてきた。一瞬、何が起こったのかわからない。聞き覚えのあるメロディ。70年代のポップス。

<http://yahp.e7.valueserver.jp/1050.zuihitsu/ryokou.nobuhide.No.01.pdf>

### No.02. 小林 延秀のカチン州旅行日記 後編

先をすすんでいたポーターたちが道端に立ち止まっていた。アウンサンが彼らの視線の先を指差して叫んだ。「あれを見ろ！」近づくとも水たまりにたくさんの黄色い物体が見えた。水の中に黄色い葉っぱ？ いや、花か？「フロッグ！」アウンサンが叫んだ。「え、蛙!？」水中にいたのは、全身真っ黄色の蛙だった。見たこともない数だ。トノサマガエルより少し大きい。

<http://yahp.e7.valueserver.jp/1050.zuihitsu/ryokou.nobuhide.No.02.pdf>

### No.03. 小林 延秀のチン州旅行日記 前編

2015年8月29日(土)

ヤンゴンを飛び立った飛行機は、澄みきった青空のもと順調に飛行を続けた。最初の経由地バガン(Bagan)に近づく頃から眼下の景色が変わってきた。川と陸の境界があいまいで、家々や森が全体に薄茶色に見える。次の経由地マンダレー(Mandalay)を飛び立ち、目的地カレー(Kalay)に近づくにつれ、風景はますます異様なものになっていった。

<http://yahp.e7.valueserver.jp/1050.zuihitsu/ryokou.nobuhide.No.03.pdf>

### No.04. 小林 延秀のチン州旅行日記 中編

2015年8月31日(月)

ピリッとした朝のすがすがしさの中、村の中を通る本道を散歩してみた。おばあさんたちが民族衣装を着て、例のとんがった独特の帽子をかぶって働いている。「ダンモ！」と挨拶すると、「ダンモ！」と返してくれる。

<http://yahp.e7.valueserver.jp/1050.zuihitsu/ryokou.nobuhide.No.04.pdf>

### No.05. 小林 延秀のチン州旅行日記 後編

「このあたりが最初のポイントじゃないかな？」数歩先を歩くFさんが言った。なだらかな草原の中の小道を歩き、大きなカーブを曲って鬱蒼とした森に入ったところだった。樹々の幹や枝には苔がびっしりと絡みつき、いかにも「幻の蝶」が現れそうだと。私はその場に立ち止まり、ゆっくりと周囲を見渡した。

<http://yahp.e7.valueserver.jp/1050.zuihitsu/ryokou.nobuhide.No.05.pdf>